

◆授業のポイント◆

- ・ 小学校外国語活動を踏まえた学習活動の設定
- ・ 実社会を意識した場面を設定した学習活動の設定

## 英語科学習指導案

学 級 1年5組 (男子17名女子20名計37名)  
場 所 1年5組教室 (1年校舎4階)  
授業者 教 諭 盛 山 隆 明

### 1 単元 NEW HORIZON English Course 1 Unit 2 みんな友達

#### 2 単元について

本単元は、さくらと一郎がベッキーに校舎内を案内するという内容である。4月に本校に入学してきた1年生にとって、カナダから日本にやって来た新入生のベッキーの存在は親しみやすく、生徒の今現在おかれている状況と似ていることにより、興味・関心が高まりやすい素材であると考えられる。また、文法事項として扱われている、身の回りのものを紹介する This[That] is...やその疑問文である Is this[that]...?の表現、そして人について紹介する He[She] is...の表現は、日常生活の中で非常に多く使用され、会話の幅を広げる表現である。これらの文法事項を活用し、Part1 ではさくらと一郎がベッキーに彼女の机を教え、Part2 ではさくらとベッキーが校舎の窓から見える建物について問答し、Part3 ではさくらがベッキーにケビンを紹介することで、身の回りのものや人について友達と対話できる内容となっている。

本学級の生徒は、全体的に英語学習に対して意欲的で、素直で明るい。アンケートの結果から、小学校外国語活動において、8割の生徒が「聞くこと」や「話すこと」について楽しかったという感想をもっていることが分かった。また、生徒は小学校外国語活動において「道案内」「好きな食べ物やスポーツ」「自己紹介」をテーマにした単語や表現を覚えている。「英語の歌を歌えるようになりたい」「通訳なしに会話できるようになりたい」「外国の人に道案内できるようになりたい」など、中学校英語学習について意欲的に取り組みたいと考えている。また、英語を全体の前で発表する際、自分の考えを英語で表現できてうれしかったという感想をもつ生徒が多かった一方、英語で自分の考えを表現することが恥ずかしいと思う生徒も一部いた。

指導にあたっては、さくらと一郎がベッキーに校舎内を案内する内容を読み取らせ、This[That] is...や Is this[that]...?, He[She] is...の文を用いて、おすすめしたい場所や地域の身近な人について英語で表現させたい。はじめに、小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を想起させ、新出表現を含んだ口頭英作文をさせることで、生徒が言語活動に意欲的に取り組むことができ、基本文の導入がスムーズに行われると考えた。発表においては、常に聞き手がいることを留意させ、正しい強勢やイントネーション、区切りにも気を付けさせたい。またペア学習やグループ学習を取り入れ、助け合い学習の場を設定し、生徒が対話を通してお互いにアドバイスしながら言語活動を行うことで、基礎的・基本的な知識・技能の習得が図られると考えた。さらに、生徒が英文を書くことを始めたばかりであることから、縮約形やコンマ、ピリオド、文の始まりや名前の最初の文字は大文字で書き始めるなど、英文を書くときの正しいルールについても確認させたい。

#### 3 習得・活用・探究の授業の関連

習得している基礎的・基本的な知識や技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新出の語句や基本文の意味・形・用法を理解して使う。</li> <li>・ 校舎内を中心に展開される本文の内容を理解する。</li> </ul>
知識や技能が活用された姿 (生徒像)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ This[That] is...や Is this[that]...?や He[She] is...の文を用いて友達にインタビューしたり、それに答えたりすることができる。</li> <li>・ 読み取った内容を踏まえて、自分の身の回りのものや人について説明できる。</li> </ul>

探究的な学習活動において表れる生徒の姿

- ・ This[That] is...や Is this[that]...?や He[She] is...の文を用いて，ALTにすすめしたい場所や人を紹介できる。

4 単元の目標

- (1) This[That] is...や Is this[that]...?や He[She] is... の文を用いて，間違いを恐れずに英語でコミュニケーションを図ろうとしている。
- (2) 新出の文法事項を用いて，すすめしたい場所や人を表現できる。
- (3) 本文の内容を読み取ったり，友達の説明を聞き取ったりすることができる。
- (4) This[That] is...や Is this[that]...?や He[She] is...の文の意味・形・用法を知る。

5 単元の指導計画

【Goal of Unit 2 : ALTにすすめしたい場所や地域の身近な人を紹介しよう】

(は本時扱い)

	主な学習内容	主な技能の統合	
			○ 小学校外国語活動を踏まえた学習活動の設定 □ 実社会を意識した場面を設定した学習活動の設定
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習</li> <li>・ 単元の学習計画の確認</li> <li>・ 新出語句 (Part1)</li> <li>・ 新出の文構造 (This[That] is...)</li> <li>・ 内容理解 (Part1)</li> <li>・ 言語活動(すすめしたい場所の紹介)</li> </ul>	S ↓ L ↓ W	○ 英語ノート2 Lesson 5 道案内をしよう Where is ~? □ ALTにすすめしたい場所を紹介しよう
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習</li> <li>・ 新出語句 (Part2)</li> <li>・ 新出の文構造 (Is this[that]...?)</li> <li>・ 内容理解 (Part2)</li> <li>・ 言語活動 (自分の住んでいる地域についてALTからの質問に答える)</li> </ul>	S ↓ L ↓ W	○ 英語ノート1 Lesson 7 クイズ大会をしよう What's this? □ 自分の住んでいる地域についてALTからの質問に答えよう
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習</li> <li>・ 新出語句 (Part3)</li> <li>・ 新出の文構造 (He[She] is...)</li> <li>・ 内容理解 (Part3)</li> <li>・ 言語活動(すすめしたい人の紹介)</li> </ul>	W ↓ S ↓ L	□ ALTに自分の住んでいる地域の人について紹介しよう
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習</li> <li>・ まとめと練習1</li> <li>・ 言語活動 (案内文の作成)</li> </ul>	R ↓ W	○ 英語ノート2 Lesson 1 アルファベットで遊ぼう What's this?
第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語活動 (案内文の作成と発表)</li> </ul>	W ↓ S ↓ L	□ ALTにすすめしたい場所や地域の身近な人を紹介しよう ○ 英語ノート2 Lesson 5 道案内をしよう Where is ~?

I コミュニケーションへの関心・意欲・態度	II 外国語表現の能力	III 外国語理解の能力	IV 言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取り組み)</p> <p>ア 相づちをうったりメモを取ったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。</p> <p>イ 間違うことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。</p> <p>ウ 積極的に音読している。</p> <p>エ 間違うことを恐れず積極的に書いている。</p>	<p>(適切な発話)</p> <p>ア 場面や状況にふさわしい表現を用いて話することができる。(正確な音読)</p> <p>イ 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。(適切な音読)</p> <p>ウ 意味内容にふさわしく音読することができる。(適切な筆記)</p> <p>エ 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。</p>	<p>(正確な聞き取り)</p> <p>ア 強勢やイントネーション、区切りなどの特徴を捉えて聞き取ることができる。(適切な聞き取り)</p> <p>イ 話されている内容から話し手の意向を理解することができる。(正確な読み取り)</p> <p>ウ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。(適切な読み取り)</p> <p>エ あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。</p>	<p>(言語についての知識)</p> <p>ア 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを知っている。</p> <p>イ 発音の違いに関する知識を身に付けている。</p> <p>ウ 語句や文、文法などに関する知識を身に付けている。</p> <p>エ 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。</p> <p>オ OK. / Thank you. / You're welcome.を使う場面を知る。</p>

## 7 本時の実際 (1/5)

## (1) 目標

- ① ペアやグループ学習に積極的に参加し、間違いを恐れずに自分のおすすめしたい場所について説明しようとしている。
- ② 自分のおすすめしたい場所や店について説明できる。
- ③ 本文の内容を読み取り、友達のおすすめしたい場所や店について聞き取ることができる。
- ④ OK. / Thank you. / You're welcome.を使う場面を知る。

## (2) 授業設計の工夫

## ① 小学校外国語活動を踏まえた学習活動の設定

生徒が意欲をもって中学校英語学習に取り組めるようにするために、小学校外国語活動で使用した教材や体験した活動を活用することとした。具体的には、Warm-upとして英語ノート2 Lesson 5「道案内をしよう」で使用された絵カードを用いて単語を口頭練習することとした。また、音声から文字に至る指導過程について、ourを用いてローマ字と英語の綴りや発音の違いに気づかせたり、that/thankのthの発音の違いについて話し合わせたりすることで、徐々に英語と音の綴りの関係に慣れ親しませていくようにする。このように音声と文字の関係を意識させることで、中学校英語学習における新出語句の習得がより図られると考えた。

## ② 実社会を意識した場面を設定した学習活動の設定

実社会を意識した場面を設定した学習活動に取り組むことで、生徒に英語を使う必然性を感じさせ、意欲的に英語学習に取り組ませることができると考えた。具体的には、生徒がALTに自分たちの住んでいる地域にある、おすすめしたい場所を英語で説明する文を考え、発表させる学習活動を設定する。そこで、This is...の文を用いて、自分がおすすめしたい場所を考え、説明させ、その理由を一文付け加えさせることにした。その際、likeやplay, canなどの小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を使用させることで、生徒は小学校外国語活動で慣れ親しんだ知識を駆使し、言語活動に取り組むことができると考えた。

(3) 展開

時間 份	学習過程	主な学習活動	指導上の留意点と評価 基 基礎・基本の定着 興 興味・関心・意欲・態度の育成 ※ 授業のポイント ◎ 評価項目 ○ 留意点
8	1 Greetings 2 Warm-up	1 日常会話を含んだあいさつをする。 2 小学校外国語活動で慣れ親しんだ建物の名前を口頭練習する。	興 英語学習の雰囲気をつくる。 ※ 小学校外国語活動で慣れ親しんだ単語を口頭練習させる。
37	3 Today's Goal 4 New Words 5 Target Sentence 6 Comprehension 7 Reading Aloud 8 Activity 9 Presentation 10 Writing a Sentence	3 本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ALTにおすすめしたい場所を友達に紹介する文を考えよう</div> 4 新出単語について理解する。 5 基本文について理解し、口頭練習する。 6 一郎とベッキーの対話を読み取る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">読み取りのポイント 1 一郎が教室の中でベッキーに紹介したものは何か。 2 ベッキーが一郎に Thank you. と言ったのはなぜか。</div> 7 本文を音読する。 8 ALT におすすめしたい場所について考える。 9 ALT におすすめしたい場所について発表する。 10 ALT におすすめしたい場所について一文書く。	○ 学習目標を把握させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ○ 音声と文字のつながりを意識させる。 ・ our の綴りから音を連想させる。 ・ that/thank の th の発音の違いに気付かせる。 基 基本文を習得・活用させるために口頭英作文に取り組ませる。(電子黒板) ○ 概要把握のための質問に答えさせる。 ○ 黙読をしながら内容把握のための質問に答えさせる。 ○ 縮約形やコンマ、ピリオド、大文字や小文字を確認する。 ◎ OK. / Thank you. / You're welcome. を使う場面を知る。(IV-オ) ○ 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読させる。 ◎ 間違ふことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。(I-イ) 興 英語で自分の考えを表現できたことを賞賛する。 ◎ 話されている内容から話し手の意向を理解することができる。(III-イ) 基 自分の考えをノートに正確に記録させる。 ◎ 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。(II-エ)
5	11 Consolidation 12 Self-Evaluation 13 Notice 14 Greetings	11 本時のポイントを確認する。 12 自己評価をする。 13 次時の予告を聞く。 14 終わりのあいさつをする。	○ 本時の内容を整理させ、学習内容を定着させる。 ○ 「E-card」を活用し、自己評価を行わせる。 興 学習の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。